

ソロモンの雅歌

¹ ソロモンの歌の中の歌。

愛する女

² あの人が、その口で私に口づけしてくれますように。

あなたの愛はぶどう酒よりもすばらしい。

³ あなたの香油は心地よい香りを放つ。

あなたの名は注ぎ出された香油のよう。

それゆえ、おとめたちはあなたを愛する。

⁴ 私を連れて行ってください。

一緒に急ごう。

王は私をその部屋へ連れて来た。

友人たち

私たちはあなたのことで喜び、楽しもう。

あなたの愛をぶどう酒以上にほめたたえよう。

愛する女

彼女たちがあなたを愛するのも当然だ。

⁵ 私の肌は黒いが、美しい。

エルサレムの娘たちよ、

ケダルの天幕のように、

ソロモンの幕のように。

⁶ 私の肌が黒いからと、見つめないでほしい。

太陽が私を焼いたのだ。

母の息子たちは私に腹を立て、

私をぶどう畑の番人にした。

だが、自分のぶどう畑は守れなかった。

⁷ 私が心から愛する人よ、教えてください。

あなたはどこで群れに草を食べさせ、

真昼にはどこで休ませるのか。

なぜ私は、あなたの仲間たちの群れのそばで、

顔を覆う女のようにでなければならないのか。

愛する男

8 女たちの中で最も美しい人よ、知らないのなら、
羊の足跡をたどれ。
羊飼いたちの天幕のそばで、子やぎに草を食べ
させよ。

9 愛しい人よ、私はあなたを、
ファラオの戦車につながれた雌馬にたとえる。

10 耳飾りをつけたあなたの頬は美しく、
宝石を連ねたあなたの首も美しい。

友人たち

11 私たちはあなたのために、銀の飾りをつけた
金の耳飾りを作ろう。

愛する女

12 王が食卓に着いている間、
私の香油は香りを放った。

13 私の愛する人は、私にとって没薬の香り袋。
私の乳房の間に宿る。

14 私の愛する人は、私にとって、
エン・ゲディのぶどう畑に咲くヘンナの花房。

愛する男

15 見よ、* 愛しい人よ、あなたは美しい。
見よ、あなたは美しい。
あなたの目は鳩のようだ。

愛する女

16 見よ、私の愛する人よ、あなたは美しく、まこと
に慕わしい。
私たちの寝床も青々としている。

愛する男

17 私たちの家の梁は杉、

* 1:15

1:15

「見よ」は、ヘブライ語 **רָא**「見る」に由来し、「目を留めよ」「注目せよ」などの意味を

垂木はもみの木だ。

2

愛する女

¹私はシャロンのばら、
谷間のゆり。

愛する男

²いばらの中のゆりのように、
娘たちの中で、私の愛する女もそのようだ。

愛する女

³森の木々の中のりんごの木のように、
若者たちの中で、私の愛する人もそのようだ。

私は喜びに満たされて、あの人の陰に座った。
その実は私の口に甘かった。

⁴あの人は私を宴会の広間へ連れて行った。
私の上に掲げられた旗は愛。

⁵干しぶどうで私を支え、
りんごで私を力づけてください。
私は恋い焦がれて弱っている。

⁶あの人の左の手は私の頭の下にあり、
右の手は私を抱いている。

⁷エルサレムの娘たちよ、
野のかもしれないや雌鹿にかけて、あなたがた
に誓わせる。
愛が望む時までは、
愛をかき立てたり、目覚めさせたりしないでく
ださい。

⁸私の愛する人の声！
見よ、あの人が来る。
山々を跳び越え、
丘々を駆けて来る。

⁹私の愛する人は、かもしれないや若い鹿のよう。

見よ、あの人は私たちの壁の後ろに立っている。
窓から中をのぞき、
格子越しに見つめている。

10 私の愛する人は私に言った。
「立ちなさい。私の愛する女、美しい人よ。一緒に行こう。」

11 見よ、冬は過ぎ去り、
雨もやみ、去っていった。

12 地には花が現れ、
歌う時が来た。
山鳩の声が私たちの国に聞こえる。

13 いちじくの木は青い実を熟させ、
ぶどうの木は花を咲かせ、
その香りを放っている。

立ちなさい。私の愛する女、美しい人よ。
一緒に行こう。」

愛する男

14 岩の裂け目、
山腹の隠れ場にいる私の鳩よ、
あなたの顔を見せておくれ。
あなたの声を聞かせておくれ。
あなたの声は甘く、あなたの顔は美しい。

15 私たちのために狐を捕らえよ。
ぶどう畑を荒らす小狐を。
私たちのぶどう畑は花盛りだ。

愛する女

16 私の愛する人は私のもの、私はあの人のもの。
あの人はゆりの間で群れを飼っている。

17 日が涼しくなり、影が消え去るまでに、
私の愛する人よ、戻って来てください。

ベテルの山々を駆ける、もしかや若い鹿のよう
になってください。

3

- 1 夜、寝床で、
私は心から愛する人を捜した。
捜したが、見つからなかった。
- 2 「今、起きて町を歩き回り、
通りや広場で、心から愛する人を捜そう。」
私は捜したが、見つからなかった。
- 3 町を巡回する見張りたちが私を見つけた。
「私が心から愛する人を見ませんでしたか。」
- 4 彼らのところを通り過ぎて間もなく、
私は心から愛する人を見つけた。
私はあの人をつかまえ、放さなかった。
母の家へ、
私を身ごもった母の部屋へ連れて行くまで。
- 5 エルサレムの娘たちよ、
野のもしかや雌鹿にかけて、あなたがた
に誓わせる。
愛が望む時までは、
愛をかき立てたり、目覚めさせたりしないでく
ださい。
- 6 煙の柱のように荒野から上って来るこれは誰か。
没薬と乳香の香りをまとい、
商人のあらゆる香料をまとって。
- 7 見よ、ソロモンの輿だ。
その周りには六十人の勇士、
イスラエルの勇士たちがいる。
- 8 彼らはみな剣を扱い、戦いに熟練している。
一人一人が腰に剣を帯び、
夜の恐れに備える。

- 9 ソロモン王は自分のために、
レバノンの木で輿を作った。
- 10 その柱は銀、
底は金、座席は紫の布。
内側はエルサレムの娘たちが、
愛を込めてしつらえた。
- 11 シオンの娘たちよ、出て来て、ソロモン王を見よ。
その母が王にかぶせた冠を。
王の婚礼の日、
その心が喜ぶ日にかぶせた冠を。

4

愛する男

- 1 見よ、私の愛する女よ、あなたは美しい。
見よ、あなたは美しい。
ベールの後ろのあなたの目は鳩のようだ。
あなたの髪は山羊の群れのよう、
ギレアデ山を下って来る群れのようだ。
- 2 あなたの歯は、毛を刈られたばかりの羊の群れ、
洗い場から上って来た群れのようだ。
どれも双子を産み、
子を失ったものは一頭もない。
- 3 あなたの唇は緋色の糸のよう、
その口は美しい。
ベールの後ろのあなたのこめかみは、ざくろ
の一片のようだ。
- 4 あなたの首は、武器庫として建てられたダビデ
の塔のようだ。
そこには千の盾、
勇士たちの盾がすべて掛けられている。
- 5 あなたの二つの乳房は、
かもしかの双子の子鹿のよう。

ゆりの間で草を食べている。

6 日が涼しくなり、影が消え去るまで、
私は没薬の山へ、
乳香の丘へ行こう。

7 私の愛する女よ、あなたはすべてが美しい。
あなたには傷一つない。

8 私の花嫁よ、レバノンから私と一緒に来なさい。
レバノンから私と一緒に。
アマナの頂から、
セニルとヘルモンの頂から見渡しなさい。
獅子の巣から、
豹のいる山々から。

9 私の妹、私の花嫁よ、あなたは私の心を奪った。
あなたの一目、
あなたの首飾りの鎖一つで、私の心を奪った。

10 私の妹、私の花嫁よ、あなたの愛はなんと美しい
ことか。
あなたの愛はぶどう酒よりもはるかにすばらしく、
あなたの香油の香りは、どんな香料にもまさっている。

11 私の花嫁よ、あなたの唇からは蜜が滴る。
蜂蜜と乳があなたの舌の下にある。
あなたの衣の香りは、レバノンの香りのよう
だ。

12 私の妹、私の花嫁は、閉ざされた庭。
閉ざされた泉、
封じられた水源だ。

13 あなたの若枝は、ざくろと貴い実のなる果樹園、
ヘンナとナルド、

14 ナルドとサフラン、

菖蒲とシナモン、あらゆる乳香の木、
没薬とアロエ、最上のすべての香料。

15 庭園の泉、
生ける水の井戸、
レバノンから流れ下る水だ。

愛する女

16 北風よ、起これ。南風よ、来い。
私の庭に吹き、その香りを放て。
私の愛する人が自分の庭に入り、
その良い実を味わってくださいように。

5

愛する男

1 私は自分の庭に入った。私の妹、私の花嫁よ。
没薬を香料とともに集め、
蜂蜜を蜂の巣とともに食べ、
ぶどう酒を乳とともに飲んだ。

友人たち

友人たちよ、食べよ。
愛する者たちよ、飲め。存分に飲め。

愛する女

2 私は眠っていたが、心は目覚めていた。
私の愛する人が戸をたたく声がある。
「私の妹、愛しい人、私の鳩、汚れのな
い人よ、開けておくれ。
私の頭は露にぬれ、
髪は夜のしずくにぬれている。」
3 私は衣を脱いだ。どうしてまた着られよう。
足を洗った。どうしてまた汚せよう。
4 私の愛する人が、掛け金の穴から手を差し入れ
た。
私の胸はあの人を思って高鳴った。
5 私は愛する人のために戸を開けようと立ち上がった。

私の両手から没薬が滴り、
指から流れる没薬が、
錠の取っ手に滴った。

6 私は愛する人のために戸を開けた。

しかし、愛する人は背を向け、去っていた。
あの人が語った時、私の心は消え入るばかりだった。

捜したが、見つからなかった。
呼んだが、答えはなかった。

7 町を巡回する見張りたちが私を見つけた。

彼らは私を打ち、
傷つけた。

城壁を守る者たちは、私の上着を奪い取った。

8 エルサレムの娘たちよ、あなたがたに誓わせる。

私の愛する人を見つけたなら、
私が恋い焦がれて弱っていると伝えてください。

友人たち

9 あなたの愛する人は、ほかの人よりどこがすぐれているのか。

女たちの中で最も美しい人よ。

あなたの愛する人は、ほかの人よりどこがすぐれているので、

私たちにそのように誓わせるのか。

愛する女

10 私の愛する人は白く、血色がよく、
一万人の中でもひととき目立つ。

11 その頭は最も純粋な金のように。
髪は房をなし、烏のように黒い。

12 その目は水の流れのほとりにいる鳩のようで、
乳で洗われ、宝石のように美しく据えられている。

13 その頬は香料の花壇、香衣草の小高い畝のよう。

- その唇は、流れる没薬を滴らせるゆりのよう。
14 その手は、緑柱石をはめ込んだ金の輪のよう。
その体は、サファイアを散りばめた象牙細工のよう。
15 その脚は、純金の台座に据えられた大理石の柱のよう。
その姿はレバノンのよう、杉のようにひときわすぐれている。
16 その口は甘く、
そのすべてが慕わしい。
エルサレムの娘たちよ、これが私の愛する人、
これが私の友。

6

友人たち

- 1 女たちの中で最も美しい人よ、あなたの愛する人はどこへ行ったのか。
あなたの愛する人はどちらへ向かったのか。
私たちも一緒に捜そう。

愛する女

- 2 私の愛する人は、自分の庭へ、
香料の花壇へ下って行った。
庭園で群れを飼い、ゆりを集めるために。
3 私は私の愛する人のもの、私の愛する人は私のもの。
あの人はゆりの間で群れを飼っている。

愛する男

- 4 私の愛する女よ、あなたはティルツアのように美しく、
エルサレムのように麗しく、
旗を掲げた軍勢のように畏れを抱かせる。
5 あなたの目を私からそらしておくれ。
その目は私を圧倒する。

あなたの髪は山羊の群れのよう、
ギレアデの山腹に伏す群れのようだ。

6 あなたの歯は、洗い場から上って来た

雌羊の群れのようだ。

どれも双子を産み、

子を失ったものは一頭もない。

7 ベールの後ろのあなたのこめかみは、ざくろの一片のようだ。

8 王妃が六十人、そばめが八十人、

おとめたちは数えきれないほどいる。

9 しかし、私の鳩、私の完全な人はただ一人。

彼女は母のただ一人の娘、

彼女を産んだ母の最愛の娘だ。

娘たちは彼女を見て、幸いな者と呼び、

王妃たちもそばめたちも、彼女をほめたたえた。

10 暁のように姿を現し、

月のように美しく、

太陽のように明るく、

旗を掲げた軍勢のように畏れを抱かせるこの人は誰か。

11 私は谷間の若葉を見ようと、

くるみの木の林へ下って行った。

ぶどうの木が芽を出したか、

ざくろが花を咲かせたかを見るために。

12 気づかぬうちに、

私の願いは私を、王家の民の戦車へと運んでいた。

友人たち

13 戻って来てください。戻って来てください、シラムの女よ。

戻って来てください。戻って来てください。あ
なたを見つめたいのです。

愛する男

なぜあなたがたは、マハナイムの踊りでも見るよう
に、

シュラムの女を見つめたいのか。

7

1 高貴な娘よ、履物をはいたあなたの足は、なん
と美しいことか。

丸みを帯びたあなたのももは宝石のよう、
熟練した職人の手のわざだ。

2 あなたの腹は丸い杯のよう、
混ぜ合わせたぶどう酒が欠けることはない。
あなたの腰は、ゆりに囲まれた
小麦の山のようだ。

3 あなたの二つの乳房は、
かもしかの双子の子鹿のよう。

4 あなたの首は象牙の塔のよう。
あなたの目は、バテ・ラビムの門のそばにある
ヘシュボンの池のよう。
あなたの鼻は、ダマスコを見渡すレバノン
の塔のようだ。

5 あなたの頭はカルメルのようにそびえ、
頭の髪は紫の布のよう。
王さえ、その房に捕らえられている。

6 愛しい人よ、喜びに満ちて、
なんと美しく、なんと心地よいことか。

7 あなたの姿はなつめやしの木のよう、
あなたの乳房はその実の房のようだ。

8 私は言った。「なつめやしの木に登り、
その実の房をつかもう。」

あなたの乳房はぶどうの房のようであれ。
あなたの息の香りはりんごのようであれ。

- 9 あなたの口は最上のぶどう酒のようだ。
愛する人のためになめらかに流れ、
眠る者の唇をすべって行く。

愛する女

- 10 私は私の愛する人のもの。
あの人の思いは私に向かっている。
- 11 私の愛する人よ、来てください。野へ出て行こう。
村々で夜を過ごそう。
- 12 朝早くぶどう畑へ行こう。
ぶどうの木が芽を出したか、
花が開いたか、
ざくろが花を咲かせたか見よう。
そこで私は、あなたに愛をささげる。
- 13 恋なすびは香りを放っている。
私たちの戸口には、新しいものも古いものも、あらゆる良い実がある。
私の愛する人よ、私はそれをあなたのために蓄えておいた。

8

- 1 ああ、あなたが私の兄弟のようであったなら。
私の母の乳房を吸った兄弟のようであったなら。
- 外であなたに出会えば、私はあなたに口づけする。
そうしても、誰も私をさげすまない。
- 2 私はあなたを導き、母の家へ連れて行く。
母は私を教えてくれるだろう。
- 私は香料を混ぜたぶどう酒、
私のざくろの果汁をあなたに飲ませる。
- 3 あの人の左の手は私の頭の下にあり、
右の手は私を抱くだろう。
- 4 エルサレムの娘たちよ、あなたがたに誓わせる。

愛が望む時までは、
愛をかき立てたり、目覚めさせたりしないでく
ださい。

友人たち

⁵ 荒野から上って来るこの人は誰か。
愛する人に寄りかかって。

愛する女

りんごの木の下で、私はあなたを呼び覚ました。
そこで、あなたの母はあなたを身ごもり、
そこで産みの苦しみを味わい、あなたを産ん
だ。

⁶ 私をあなたの心に印章のように、
あなたの腕に印章のように置いてください。
愛は死のように強く、
その熱情はよみ* のように苛烈だ。
そのきらめきは火のきらめき、
まさに主の炎。†

⁷ 大水も愛を消すことはできず、
洪水もそれを押し流せない。
たとえ人が愛を得ようと、家の全財産を差し出して
も、
たださげすまれるだけだ。

兄たち

⁸ 私たちには小さな妹がいる。
まだ乳房もない。
妹に縁談が持ち上がる日に、
私たちは妹のために何をしよう。

⁹ 妹が城壁なら、
その上に銀の塔を建てよう。

* 8:6 8:6 よみ（シェオル）は死者の場所である。
ヘブライ語では「יה」（ヤハ）である。

† 8:6 8:6

妹が戸なら、
杉の板で囲もう。

愛する女

10 私は城壁、私の乳房は塔のよう。
それゆえ私は、あの人の目に平安を見いだした者となった。

11 ソロモンはバアル・ハモンにぶどう畑を持っていた。
彼はそのぶどう畑を番人たちに貸し出した。
番人はそれぞれ、その実の代価として銀千シェケル[‡]を納めることになっていた。

12 私のぶどう畑は私のもの。
ソロモンよ、千シェケルはあなたに。
その実を守る者たちには二百シェケルを。

愛する男

13 庭園に住む人よ、友人たちが耳を傾けている。
あなたの声を私に聞かせておくれ。

愛する女

14 私の愛する人よ、急いで来てください。
香料の山々を駆ける、もしかや若い鹿のよう
になってください。

[‡] 8:118:11 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。千シェケルは約10

フリーダム・バイブル
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は eBible.org です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を ebible.org+jpnm@gmail.com までお寄せください。

2026-07-24

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 29 Jul 2026 from source files dated 24 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424